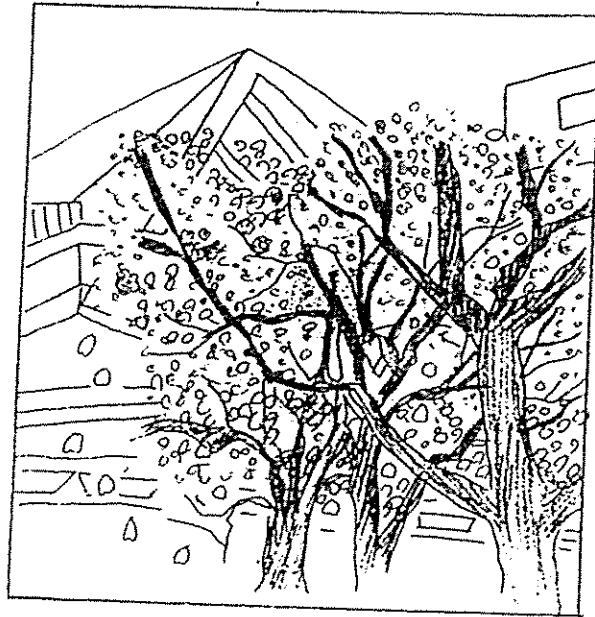


から、やがて、空を覆う花霞を楽しむことができることでしょう。



(画) 穴沢 崇

サクラの開花が春の始まり、この辺では、入学式で学校の始まり。「サクラ前線」という素敵な言葉に心浮き立たせて春を待つ日本人。正に国花です。

サクラは、ヒカンザクラ、ヤマザクラ、サトザクラ、オオシマザクラ、シダレザクラなどなど、種類が多く開花の時期もさまざま、意外に長い期間楽しめる花のように思います。

今、最もポピュラーなソメイヨシノは比較的新しい品種です。古人の愛でたサクラは、ヤマザクラやオオシマザクラなど、清楚な印象の花のようです。

因みに、尾崎行雄がアメリカに贈ったサクラは、一度害虫の被害で全滅して、2年後に贈り直したものが今のポトマック河畔のサクラ並木。

公害に弱い樹木だけに、消毒、施肥、草むしりと大変な手の掛けようとのこと、本校のソメイヨシノがすくすくと育ち、色鮮やかなピンクの花を咲かせることのできる環境であって欲しいものです。

アラカシ

理科室脇の花壇に2本、体育館脇の斜面に2本、流水池の脇に2本。

アラカシは「粗櫨」と書きます。

その葉や枝振りが他の櫨と比べて粗大で堅いことから名付けられたものですが、一年中、よく光る濃い緑の葉を茂らせています。

株立ちし易いことや、萌芽力が強く、どこで切っても新しい枝葉を出してくれます。

陽射しや土質をほとんど選びません。

この逞しい性質を利用して、生け垣の群植にも一本植えにも使われる樹木です。



学校便り 12月号 (6・12・1)

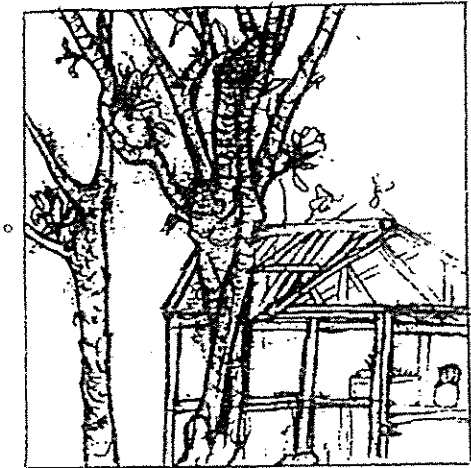
ハクモクレン

魚の形の造形砂場の横、すらりと背の高い樹です。灰白色の幹に黄緑の葉をつけて全体に淡彩の印象を受けます。

春、葉に先がけて枝一杯に咲く花は淡黄白色。大型で肉厚の花は青空によく映えてすがすがしい気分にしてくれます。

紫色の花をつけるのがシモクレン、「モクレン」と呼ぶときはこちらの方を指すようです。

原産は中国、15世紀頃から文人墨客に愛され、屋敷の前庭には欠かすことのできない樹とされました。



(画) 石原 陽子

キンモクセイ

十月初めの穏やかな日だまりにふっと微かな秋の香り。見回せば、樹冠をオレンジ色に染めて咲くキンモクセイ。

通用門脇と百葉箱の隣にあります。

乳白色の花をつけるギンモクセイもあるそうです。

布袋に集めた花とレモンの果肉をはちみつと一緒にホワイトリカーに漬け込むような、モクセイ酒ってどんな味？

ザクロ

キンモクセイの隣のザクロが、直径7cmぐらいの大粒の実をたくさんつけました。たねを口にふくんで甘酸っぱい果汁を楽しみました。

「おそれ入谷の、、、」で有名な鬼子母神は、始め、カリテイモといい、我が子を養うために他人の子を捕って食わせるという鬼神でした。これを知った釈迦は、カリテイモの子の一人を隠してしまいました。我が子を失って嘆き苦しむカリテイモに、釈迦は子を失う親の悲しみを諭し、「人の子の代わりにこれを与えよ。」とザクロの実を渡しました。カリテイモは深く悔い改め、以後善行を尽くして真の神となりました。とは、仏説伝誦。ですから、鬼子母神は右